

七月号

田園

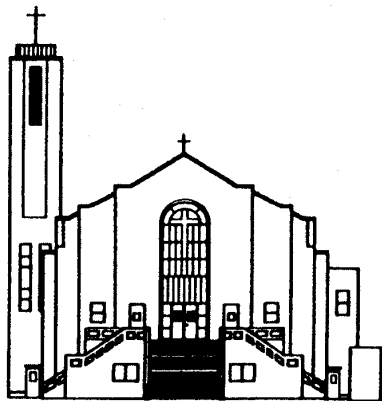
聖フランシスコ カトリック田園調布教会

(No. 701 2021.7.1)

カトリック田園調布教会報

☎03(3721)7271

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-43-1



聖書に親しむ

助任司祭 アウグストヌス桑田拓治神父

コロナ禍のもと緊急事態宣言が出され外出自粛がもとめられています。そうした事態を受けて巣ごもり需要という言葉が生まれました。その一つが調理器具であったりします。自宅にいる時間が長くなった事で本格的に料理をする人が増えているようです。巣ごもり需要として聖書に親しむのはどうでしょうか。旧約聖書はハードルが高いようならば、新約聖書のルカ福音書と使徒行録を通して読むことを提案したいと思います。この二つの書には冒頭に送り状がつけられています。聖ルカがテオフィロという人物にイエスの生涯とその後の初代教会について伝えるために書いているのです。そのためこの二つを通して読むと聖ルカが伝えようとしている事を一通り知ることが出来るのです。

新約聖書は今から2000年前の出来事です。なので、現代の私たちからは違う世界観、価値観のもとで書かれています。もちろん人として共通の価値観が存在しているのも事実です。そのため現代の価値観で読み込んでしまうと勘違いしてしまう危険性があるのも事実です。

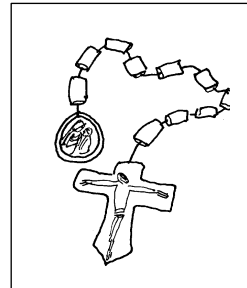
福音書にはイエス様の兄弟達が登場しますが、これは従兄弟のことであり本当の兄弟達ではありません。アラム語には従兄弟を指す言葉がなく、従兄弟のことを兄弟と呼ぶ事を知らないという勘違いしてしまいます。第二ヴァチカン公会議前の神学校では授業以外で個人的に読み過ぎないように注意を受けたと言う先輩神父の声を聞いたことがあるくらいです。そうした勘違いを避けるためにはきちんとした注がついた聖書を選

ぶことをおすすすめします。フランシスコ会
訳の聖書をお勧めしたいと思います。

次に注意したいのはコンテキスト(文脈)
を理解した上でテキスト(本文)に触れる
と言うことです。コンテキストを無視して
テキストだけを読むとイエス様が本当に言
いたかったことを理解できないことがあり
ます。それはイエス様が誰に向かって語っ
ているのかと言うことです。民衆なのか弟
子達なのか罪人なのか、それともフアリサ
イ派と律法学者達なのかという点です。イ
エス様はフアリサイ派と律法学者達に対し
ては結構意地悪な対応をしていることがあ
りますが、それは彼らがイエス様を試みよ
うとしていることが多いからだと思われま
す。

こうした点を心にとめて、巢くもり需要
として聖書に親しむことをお勧めします。

初聖体式



昨年はコロナ禍の混乱で見送らざるを得
なかつた初聖体式。感染予防対策を見出し、
二年ぶりの初聖体式を6月6日、キリストの
聖体の日に迎えることができました。

本年は感染予防のため主日ミサ後の午後1
時から執り行いました。

昨年受けられなかつたお子さまと今年3年
生になつたお子さま、総勢31名が参列しま
した。

こんなにたくさんのお子さまが初聖体式
を迎えることができましたことを、神に感
謝いたします。

教会委員会

【小学3年生】

「うれしい初聖体」

マリア・エスペランサ F・Y

今日、私は初聖体のお恵みをいただきま
した。「アーメン」と言つて感謝の気持ち
でいただきました。教会で神様のことを勉
強できたことが、とてもうれしかったです。
本当にありがとうございます。これからも
神様が愛してくださることを大切にしてい
きます。

「ありがとう、はつせい体」

ミカエル H・K

今日、はつせい体をしました。実さい食
べてみると小麦こみみたいな味がしました。
食べるとなぜだかうれしさがこみあげてき
ました。そのしゅん間にイエスさまがいる
ようでした。またミサに行
きたいです。

「はつせい体をうけて」

クララ I・K・G

今回はつせい体をうけました。白いドレスとベールをみにつけせいどうに立つのはとてもとくべつな気もちになりました。ごせい体のパンをいただいた時イエスさまが今まで以上に見まもってくださいる様に思えこれからもつとすてきな人になりたいです。

「うれしかったはつせいいたい」

ベネディクト K・K

ぼくは、はつせいいたいをうけました。まずは、さいしよにミサがありました。それからはつせいいたいがありました。まずは赤いカーペットのところにならんで、せいいたいをうけとりました。

それからきねんしやしんをとつたらはつせいいたいがおわりました。

これからまいにちミサにいつてせいいたいをうけとります。うれしかったです。

「初聖体をむかえて」

ヨハネ・フランシスコ M・K

ぼくは、今まで勉強会で神様のことを学んだり、リハーサルやお家でご聖体を頂く練習をしたりして初聖体を受ける準備をしました。初聖体の味は甘かったです。毎週ご聖体を頂けるなんていいなと思いました。

「イエス様と共に」

ヤコブ M・Y

ぼくは、教会の勉強で、イエス様の体がパンで血がぶどう酒という事がわかりました。それをいただけることは、まことにありがたいです。ぼくは、その体をいただき、イエス様の体と共にこの先も生きてゆきたいです。

「僕の力のもと」

フランシスコ S・M

今日、初めてご聖体をいただきました。ドキドキしたけれど、イエス様からゆう気をもらえた感じがして、人がよるこぶ事を沢山したいと思いました。これからは、イ

エス様といつも一緒だから強くなれそうです。

「はじめての初聖体」

ミカ T

初聖体で学んだところは、人の前にたつことです。きんちようして、でもちゃんとさいごまでがんばれてよかったです。いい思い出になりました。それと、色んな人がいる中で、みんなががんばることができてめっちゃうれしかったです。べん強会の先生たちもいい人ばかりです。楽しい思い出しかありません。初聖体ありがとうございました。

「うれしい初聖体」

クララ T・S

私は初聖体を終えて、こう思いました。神様が私の体の中にいてくださる、と。そう思ったらうれしくなりました。毎週パンをいただくのが楽しみです。私は神様から良い物をいただいているので、神様のことをたくさんたくさん勉強してお祈りをしようと思います。

「はつせい体をおえて」

使徒ヨハネ W・H

ちよつときんちようしました。

りはーさるでしつぱいしてしまい本番でできるかふ安だったけれど、せいこうできてよかったと思います。

こんどきようかに行くときがたのしみです。

「神さまのやくそく」

フランシスコ Y・H

今日、神さまのパンをいただきました。

きんちようしたけれど、神さまの本当の子供になれてとてもうれしかったです。

神さまにこまっている人をたすけますとやくそくしたので、いつもわすれないようにします。

「はつせいいたい」

フランシスカ Y・Y

かみさま、わたしたちをおまねきくださりありがとうございます。

「ミサでごせいたいをいただいて、かみさまがいつもそばにいてくださることを、ずっと大切にしていくなことが出来ますように。」

【小学4年生】

「初聖体」

ジエイボン C B

ぼくの、気持ちは楽しかったがステージに上がったとき少しきんちようしました。

そして最初は、神様のことが知らなかったがきようかになって、神さまのことを勉強をすると神さまのことを知ることができてうれしかったです。

「初聖体をむかえて」

クララ F・C

私は、初聖体をむかえて、これまでよりも神様のことを近くに感じるようになりました。コロナで大変ななか、私たちのために式をじゅんぴしてくださった神父様や教

会のみなさんに感謝しています。ありがとうございます。

「ドキドキした聖体拝領」

小さき花のテレジア I・M

私はリハーサルも本番もパンの味がどんな味なのかとばかり思っていました。緊張してしまいました。赤ちゃんのおせんべいのような味がして、とてもうれしく、緊張もすっかり忘れしました。

「はつせいいたい」

マリア I・S

イエス様のお体を初めていただけの日をワクワクして待っていました。当日は、きんちようしました。パンの味が分かって、うれしかったです。イエス様、良い行いができるように、見守っていてください。

「初聖体を受けて」

アンナ K・Y

わたしは、初聖体(三つ目のひせき)を受

けられて、とてもうれしいです。なぜかという、神様とイエス様に、少し近づけたような気がしたからです。パンは思っていたのとちがいました。もつと神様においのりしたいです。

「神様、良い子にしてください」

小さき花のテレジア M・S

私は、勉強会が楽しかったです。神父様のお話は分かりやすく、多くのことを学びました。

神様はみんなを愛してくれています。

私も、ご聖体を頂いて人に優しくしていきたいです。

「初聖体」

マリア・クララ M・S

わたしが初聖体のお勉強会で一番心にくった事は、7つのひせきです。初めて知る言葉にとでもわくわくしました。これからも神様とずっとつながっていられると思いました。初聖体ができた事に感じました。

「初聖体」

フランシスコ O・K

初聖体をいただいた時、神様がぼくの中に入ってくださった気がしてうれしかったです。ゆるしのひせきを受けた時は心が軽くなりました。これを機にぼくもイエス様のように人をゆるしていきたいです。

「初聖体を終えて」

ノア S・N

初聖体を受けた時は「ゆるしのひせき」が何なのかわかりませんでした。しかし、竹内神父様から教えていただき「なるほど！」と思いました。

ずっとあこがれていたご聖体を拝りようとしたとき、正直、味はなくて、食感はどうもダンボールでした。せめておしょうゆを一つきたらしたいなと思ってしまいました。

「はじめての初聖体」

マドンナ S・R

イエス様、いつも私達を見守って下さり

ありがとうございます。初聖体で、キリストの体をいただく事で、とても強くなれる気がいたしました。パンをいただく瞬間、私はドキツとして、とても緊張いたしました。とてもうれしい瞬間でした。

「初めてのご聖体」

アルベルト S・S

6月6日に初聖体を受けました。前日の許しのひせきでは、けっこうきんちょうしたけど、ちゃんとつみをこくはくできたので、良かったです。当日は、神父様の前に来たときは、きんちょうしたけどうれしかったです。

「初聖体、すてきな一日」

幼きイエスのテレジア S・W

今日、私は初聖体のお恵みに与りました。ミサが始まるまでは、ドキドキワクワク、でも、とても緊張しました。神父様からご聖体をいただいた時、これまではない不思議なあなたかい気持ちに包まれました。今日はすてきな一日でした。

「神様ありがとう」

ルチア・アンジェラ T・S

わたしは、聖体を受けられてとつてもうれいんです。これからは、カトリック信者として、感しやる気持ちをわすれずに、回りの人に思いやりをもってせつしたいと思ひます。

イエス様、神様、ありがとうございます。

「初聖体のお恵みをいただいて」

マダレナ U・M

初聖体を迎える事が出来、待った分何十倍もうれしかったです。パンをもらった時、神様が私たちと一緒にいて力づけて下さる存在を強く感じる事が出来ました。ありがとうございます。

「一年ごしの初せいたい」

マリア Y・S

6月6日に私は初せい体をうけました。ミサ中はドキドキしたけど、おわった後は安心しました。

【中学一年生】

「主への、ありのままのメッセージ」

パウロ S・A

父なる主、イエス様、今日も一日平和に暮らせるのもあなたのおかげです。

たとえ学校でいじめにあおうとも、家や外で理不尽な目にあおうとも、決して人を憎まざ、悔しい感情は心の中で考えて対処し、先生に相談します。

これからも、ぼくを嫌味から守り、罪をお許しください。父と子と聖霊のみ名によって、アーメン。

【小学5年生】

「聖体拝領」

ベルナデッタ I・J

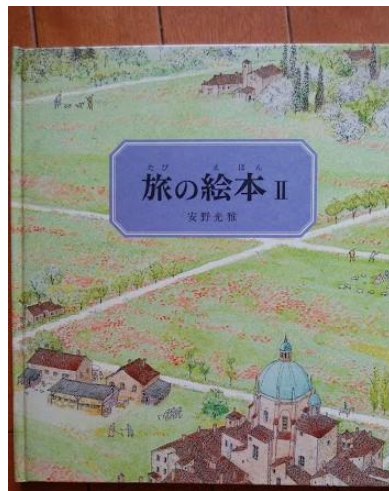
祭壇に私たちの作った色紙とお花が飾られて、とてもきれいでした。コロナ禍で去年、式を挙げられなかったので本当に良かった。

神様の事を知りたいです。忘れられない日を作ってください、ありがとうございます。



「旅の絵本」 安野光雅作

記 柳沢洋子



コロナによる自粛も第四波になり、皆様
どのようなお立場であれ「おうち時間」が
増えて、何をしていらしたでしょうか。
私はこんな時間を利用して、いつ神様から
お声がかかっても良いように、家を片付け
ようと思いました。が、なかなか進みません。
中でももつとも場所を取る本の整理は、い
ちいち中を見返して、やっぱり処分できな
い、もう一度読んでからとなったり、又、

ぺったりと座ったまま読みふけてしまったりして、上手く行きません。

その中でも、旅に行けない今、ルーペ片手に没頭してしまったのが、昨年亡くなった安野光雅さんの「旅の絵本」(福音館書店)シリーズです。第一巻は二十歳の誕生日に友人がくれたもので、中部ヨーロッパの各地の農村や集落の風景の中を青い帽子をかぶった旅人が馬で旅して行く文字の無い絵本です。ご存知の方も多いと思いますが、時間(時代)や空間を自由自在に組み合わせせてあり、いつ頃と言う特定は出来ないのですが、その何気ない生活の場面は年代を問わず、懐かしいと感じ、どの景色の中の小さなシーンも皆が「そう、そう!」と思えるものです。その後、シリーズはイギリス、アメリカ、中国、などと続き、最後の第八巻は安野さんの生まれ故郷の津和野です。

中でも私の好きなのは第二巻のイタリア編です。

安野さんの細密な絵の中にはいつもだまし

絵、映画や物語のシーンが描きこまれていくのですが、第二巻は特に聖書のシーンが多く、隅から隅まで探していくと、沢山の発見があります。皆様のこれからの楽しみのために、どこに何がとは申しませんが、写真はその一部です。



第二巻はイタリアが主題なのでピノキオ、そして何故かアリババの盗賊の話やマリリン・モンローも絵の中に紛れているのを見つける楽しみがあります。

最後の第八巻は2013年に出版、つまり大震災と原発事故の後です。

この第八巻がシリーズの最後と思われたこ

ともあったでしょうが、巻末に異例の長さで私達があの事故で気付いたことを改めて行かなければならない、と言うことを静かに書いています。(その後、第九巻も2018年に出版した)

電気は生活を楽にしてくれたけれど、子供の頃、電気が無くても不幸だとは思わなかった。後戻りはできないけれど、今、未来の禍根になることは止められる、と言う主旨です。

E・F・シューマツハーは経済学者として同様のことを1973年に出版した「スモール・イズ・ビューティフル」で書いており、この本は今なお重版され、図書館でも順番待ちです。

今回取り上げた旅の絵本シリーズで描かれた風景はいつまでも留めておきたいと思わせるもので、そのためにも私たちの今の生活を見直し、2030年以降後戻りできなくなると言われている分岐点を良い方向に曲がれるようにしたいと願っています。

余談になりますが、私は一度安野さんを見かけたことがあります。

あれはパリだったと思うのですが、街角を曲がったところで出くわしたのです。

それがいつものように片手にスケッチブック、もう一方の手に鉛筆一本を持った姿で、思わず腰を抜かしそうになりましたが、私の後ろを歩いてきた日本人が知り合いだったらしく「やあ、こんなところで！」と声をかけ、立ち話をしていました。時間があつたらお話でもしてみたかったと、今では思うのですが。

ご参考までに：

安野光雅さんの故郷、津和野には安野光雅美術館が駅前にあります。

以前、「田園」で津和野カトリック教会と乙女峠殉教地巡礼のご紹介をしましたが、合わせて旅するのもお勧めです。